

平成 21 年 3 月 23 日

各 位

不動産投資信託証券発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号
六本木ヒルズ森タワー
ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員

鈴木 博之
(コード番号：8981)

資産運用会社名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役

鈴木 博之

問合せ先 管理本部長

板橋 昇

TEL. 03-6439-0333

2009 年 2 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2009 年 2 月度の月次総売上高並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人である株式会社ホテルマネージメントジャパンから開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

ホテル／項目		2 月度	対前年 同月増減 注 7)	(参考) 累計 注 8)	(参考) 対前年 累計増減 注 9)
神戸メリケンパーク オリエンタルホテル	稼働率	71.1%	6.9%	74.9%	-1.1%
	ADR (円)	12,771	-396	15,896	455
	RevPAR (円)	9,087	629	11,905	172
	売上高 (百万円)	422	-81	3,122	-252
オリエンタルホテル 東京ベイ	稼働率	92.3%	13.3%	89.3%	7.9%
	ADR (円)	12,700	-1,405	17,928	-388
	RevPAR (円)	11,720	582	16,002	1,109
	売上高 (百万円)	454	-6	3,448	74
なんばオリエンタルホテル	稼働率	77.5%	-10.0%	80.4%	-8.4%
	ADR (円)	9,183	-1,168	10,604	65
	RevPAR (円)	7,117	-1,942	8,520	-830
	売上高 (百万円)	133	-34	925	-74
ホテル日航アリビラ	稼働率	66.2%	9.5%	73.4%	2.2%
	ADR (円)	17,266	772	22,327	681
	RevPAR (円)	11,435	2,073	16,378	985
	売上高 (百万円)	275	28	2,303	40
オリエンタルホテル広島 注 6)	稼働率	67.0%	27.0%	73.4%	10.7%
	ADR (円)	8,482	140	8,958	336
	RevPAR (円)	5,683	2,344	6,576	1,169
	売上高 (百万円)	146	24	1,109	119
上記 5 ホテル合計	売上高 (百万円)	1,430	-70	10,908	-92

2 月度の実績に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（資産運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、引き続き競合ホテルが販売室数の取り込みに苦しみ中、インターネット商品の拡充、及びグループビジネスの積極的な販売を行い、売上は前年を上回りました。料飲部門では、婚礼宴会が、2008年11月末に神戸市内に開業した婚礼施設の影響で婚礼件数が減少し、料飲部門全体の売上も前年を下回りました。その結果、ホテルの総売上は、前年同月を約81百万円下回りました。

オリエンタルホテル 東京ベイ（旧：新浦安オリエンタルホテル）について

宿泊部門では、TDR25周年イベントによる集客効果が持続している中、ADRは前年同月を下回ったものの稼働率は上昇し、結果として売上は前年を上回りました。レストラン部門において、朝食及びランチが好調裏に推移し、本年2月は前年より1日少ないものの前年同月と同水準の売上を達成しました。宴会部門では、婚礼宴会は前年を上回りましたが、一般宴会件数が減少し、部門売上は前年を下回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約6百万円下回りました。

なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門は、円高を受けた韓国インバウンドの減少及び建国記念日の日並びが悪かったこと等により、稼働率、ADR共対前年同月を下回り、売上も前年同月を下回りました。また、昨年はテナントからの解約金約9百万円の計上があったこともあり、結果的にホテル総売上は前年同月で約34百万円下回りました。

ホテル日航アリビラについて

宿泊部門では、競合ホテルが全面改装を実施する中で宿泊者数を確実に伸ばし、更に大型団体を高単価で取り込めたこと等もありADR、稼働率共前年同月比を上回り、売上も前年を上回りました。料飲部門は、宴会部門で弱含んだものの、稼働率上昇に伴う宿泊人数の増加により、レストラン部門が好調裏に推移し全体では対前年を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年を28百万円上回りました。

オリエンタルホテル広島について

宿泊部門では、予約ソースの拡充及びネット販売を中心にしたセールス活動が奏功し、前年同月に実施していた改装工事による売り止めの影響を差し引いても、稼働率、ADRとも前年同月比を上回り、売上も前年を上回りました。料飲部門においては、レストラン部門は前年同月比で同水準、宴会部門は、2008年9月初旬に竣工した3・4F宴会場のリニューアル効果により、婚礼宴会・一般宴会共に前年を上回りました。その結果、ホテルの総売上は前年同月を約24百万円上回りました。

注 1) 上記のコメントは運用会社が賃借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。

注 2) 各月の数字については監査等の手続を経ないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合もあります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。

注 3) ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を除きます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。

注 4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。

注 5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。

注 6) オリエンタルホテル広島については平成19年10月1日取得のため、対前年同月及び累計増減の算出基礎となる平成19年9月の数値は、未監査です。

注 7) 対前年同月増減とは当該月と前年同月との増減を記載しています。

注 8) 累計とは当期期首から当該月までの累計値を記載しています。

注 9) 対前年累計増減とは、当期期首から当該月までの累計値と前期期首から前年該当月までの累計値との増減を記載しています。

以上

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>